

# 「HARPER'S BAZAR.」

(New York : Harper & Brothers , 1867-)

教授（西洋服装史担当） 古賀 令子

19世紀には雑誌が次々と創刊され、読者層も飛躍的に拡大した。「字が読める」市民層の増加に加え、印刷技術の進歩や広告の導入は雑誌の価格低下をもたらし、「雑誌が買える」層はさらに拡大した。ファッション誌は、世紀前半にはテキスト中心の小型で、図版は手彩色した銅版画が付録として添付される程度だったが、図像製版技術の飛躍的進展は世紀後半に図版を多用したビジュアル誌を生み出すようになり、雑誌の判型も一気に大判化した。

こうした大判のファッション誌としては、フランスの「LA MODE ILLUSTRÉE (ラ・モード・イリュストレ)」(1860-1912)、イギリスの「THE ENGLISHWOMAN'S DOMESTIC MAGAZINE 《英国女性の家庭誌》」(1852-79)などが代表的だが、アメリカでは本誌「HARPER'S BAZAR.」が「アメリカ初のファッション週刊誌」として1867年に創刊されている。出版社Harper & Brothersは、1817年創業でアメリカ最古の出版社と言われており、当時は文芸ものや質の高い探偵小説の出版で知られ、「HARPER'S MAGAZINE」と「HARPER'S WEEKLY」の2誌も発行していた。

「HARPER'S BAZAR.」創刊趣旨を「第1巻」(通常1年分で1巻とするが、これは1867年11月2日創刊号～1868年12月26日号までとなっている) 完結時の一文に見てみよう。

「本誌創刊の目的は、世界一おしゃれで質がよく安価な家庭誌を作ることにある。この目的と有益で楽しい読物満載の16ページを毎週ご家庭にお送りするためあらゆる努力を尽くしてきた。

以下の索引をご覧いただければ、この1年間ご家

庭の関心事となるトピックは何ひとつ見逃していないことがお分かりいただろう。最新ファッションはパリに登場すると同時に取り上げられ、服飾記事にはそれぞれ何百ものデザインが含まれる。その価値は本誌価格の何倍にもなろう。こうしたファッションやデザインに関しては、これまでにない美しい木版画を多数挿入し、小説や詩などにも挿絵を豊富に入れてきた。豪華な彩色ファッション・プレートも添付している。女性たちの関心事である育児や家政、使用人の管理、看護や衛生、食品管理、アート、手芸や住居関連製品などに関しても相当量のスペースを割いてきた。

文芸誌としても一流を目している。家族の誰もが年齢を問わず知的満足を得られるはずだ。巻頭論説は賢明な示唆に富むものであり、当代一流のライターによる『各地の風俗』というエッセイは確固たる高い評価を得ている。小説や詩も本誌の魅力であり、風俗やファッションに関する諷刺記事も人気だ。海外通信員は幅広い分野をカバーしており、多様なテーマが読者の多彩な興味に対応している。『BAZAR.』誌は政治色もないし何らの党派にも属さない。政治や宗教に関する微妙な問題は取り上げず、暖炉を囲んでの和やかなムードに寄り添えるものだけを取り上げるのだ(一部省略)とある。正式な雑誌のタイトルは、「HARPER'S BAZAR. A Repository of Fashion, Pleasure and Instruction. 《ファッション、娯楽、そして知識の宝庫》」というものだった。

上記のように、各号16ページ構成で、内容は「家庭生活に関連するさまざまな分野、服装や家事管理」をカバーし、文芸分野の蓄積ある出版社

だけに「質の良い小説や読物なども魅力の一つ」となっていたようだ。メインのファッション情報に関しては、本誌がモデルとしたベルリンの「デル・バザー」誌経由でヨーロッパの最新ファッション情報を入手していたらしい（常盤新平『アメリカン・マガジンの女たち』、1989）。

そして、「付録」として「数多くの実用的な実物大パターンや時にはエレガントな彩色ファッション・プレート」（Vol.I-No.61）が付いたという。本学図書館に所蔵される第1巻（合本）には2葉の彩色プレートが貼付されており、実物大パターンに関しては2巻以降のものが保存されている。価格は年間購読料4ドルで単号バラ売りは10セントだった。

1901年に月刊となり、タイトルの表記も「BAZ

AAR]などと微妙に変化させつつ、1936年には大衆出版大手のHearst社に買収される。当時は1892年創刊の「VOGUE」誌全盛時代だったが、Hearst社は同誌に対抗するべくファッション・エディターの引抜きなど大胆なテコ入れをした。両誌が世界のファッション・ジャーナリズム界の覇権をめぐって熾烈な競争を繰り広げた20世紀中頃は、ファッション誌最後の黄金時代といえるかもしれない。1970年代以降は読者の志向が分化し、両誌ともそのパワーを衰退させていった。

とはいえ、「HARPER'S BAZA(A)R」は現在なおアメリカを代表する女性誌の一つであり、キャリア指向は強いものの生活臭が少ないハイ・クラス感が特徴となっている。フランス版、イタリア版、男性版などもあり、日本版は2000年に創刊された。



創刊号（1867/11/2）表紙



「少女の服」（1868/12/26号）